

ほろつと



No. 13
2004 Winter

が ん し ょ う ざ ん
含松山
臨南寺

大本山總持寺贈西堂
当山二十二世再中興

朴洲剛毅大和尚の 本葬儀が行われました。



總持寺貫首大道晃仙猊下により香語が与えられました。



550人を超える大勢の会葬者に見守られて。

高祖道元禪師に対する追慕の思いはことのほか篤く、平成十四年に大本山永平寺で行われた道元禪師七五〇回大遠忌において焼香師を務められ

らは「贈西堂」を賜りました。臨南寺の本堂、庫裏、会館等の再建に苦心され、その一方で大本山總持寺で要職を歴任されました。こうした功績が認められ、本寺の興聖寺からは「再中興」を、總持寺からは「贈西堂」を賜りました。

さる七月二日永眠いたしました当山住職・渡邊剛毅大和尚の本葬儀が、九月七日（火）午後一時より、大本山總持寺貫首大道晃仙猊下を導師に拝請し、臨南寺本堂にて執り行われました。

たときは、喜びもひとしおでした。世寿八十五歳。大正、昭和、平成という激動の時代を、禅道一筋に生きた生涯でした。心よりご冥福をお祈りいたします。



ご遺骨がまつられている祭壇。

臨南寺
百景



臨南寺について『住吉細見記』（梅原忠治郎著）に次のように描かれています。

「町を出て東北に向かうとすぐに大きな森が見える。臨南の森である。古い山門に入る。竹やぶの道を左に曲ると、南向きに建ったわらびき屋根の大きな本堂がある。山城淀候の祈願所といわれている。」

『椋伽林』という額が掲げられている。本尊は釈迦牟尼仏である。そばにある弁天堂が美しく、鎮守堂に秋葉三尺坊、禅堂に観世音菩薩を安置している。境内は静寂に包まれ、鳥の鳴く声が背後の森からものの哀れを告げるように聞こえる。」

臨南寺は、かつては大きな森に囲まれ、本堂のほかには弁天堂、鎮守堂、禅堂があったことが忍ばれます。秀吉の側室淀君の祈願所でもあったようです。

ごあいさつ

本年七月二日に前任職渡邊剛毅方丈が遷化いたしましたことは、前回の「ほろっと」でご存知のことだと思います。

方丈は、本堂、庫裡、会館など臨南寺の伽藍のすべてを再興されました。

また、曹洞宗大本山永平寺、大本山總持寺にも多大な功績を残されました。さらには、宗教界全体にも一石を投じられ布教された偉大な宗教者でした。

その後任にとお話を頂戴し、臨南寺副住職を拝命いたしましたのが、約三年前のことです。それ以来、方丈と一緒に全国各地の御寺院様を訪問し、勉強させていただいているなか、方丈の遷化という悲しい事態に遭遇し、いまはまだ途方に暮れているというのが正直なところです。

あまりにも突然に、この由緒ある臨南寺を、そして偉大な方



臨南寺 住職

大澤正道

丈の後を任されることに不安もありますが、亡き方丈のご遺志と期待に応えられるよう、精進してまいります。

なにぶん若輩・浅学の身でございますので、今後皆様のご指導・ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

方丈が再興し創り上げたこの臨南寺を維持・発展させるとともに、時代の要請に応えられるあたためたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

合掌

弁天さま祈禱会

一月十五日(土)に開催

臨南寺では、毎年一月十五日、弁天さまをお祀りし、『大般若波羅密多經』六〇〇巻の五七八「般若理趣分」を転読いたします。

弁天さまは、七福神の一つで正しくは弁財天といい、インドの聖なる川サラスヴァティーを神格化した「水」の神様です。弁天さまにもいろいろあります。臨南寺の弁天さまは、お顔は一つながら、八本の腕に弓・刀・斧など八つの武器を持つ「二面八臂像」です。

弁天さまは、言語、知識、音楽をつかさどり、怨敵を滅ぼし、福德・財宝を授ける神様。古くから学問、文芸、芸術、芸能の守護神として信仰されています。



わが国が安らかで穏やかに、また世界中に平和が訪れ、すべてのことがめでたく幸せでありますように——さらに、檀信徒の皆様や参詣者の方々の身体健全と家門隆盛、家内安全を祈願する法要を行います。ご家族、お友達お誘い合わせの上ご参加ください。



お釈迦様ものがたり ⑥ 集まってきた十大弟子たち



マウドガリヤーヤナ (目連)

前回お話ししましたように、お釈迦様は各地で説法を重ねました。お釈迦様の説法は画一的なものではなく、その人の地位や修行の目的に応じて最もわかりやすい話を選んだので、次々に弟子たちが増えていきました。なかでも特に優れた十人の弟子がいました。それを「お釈迦様の十大弟子」と言いますが、一人ずつご紹介しましょう。

神通第一と呼ばれました。最高の悟りを開くと、①望む場所に行く力②運命を予知する力③人の心を知る力④前世を見る力など六つの神通力を得るとされています。彼は誰よりも超能力に優れていました。シャーリプトラとは幼いころからの親友で、特に「二大弟子」と呼ばれ、協力して布教活動に尽くしました。お盆の起源を作ったことでも有名です。

マハーカーシャパ (大迦葉)

知恵第一と呼ばれた弟子です。お釈迦様の教えを理解するのも早く、巡り合ってほごなく最高の悟りを開きました。お釈迦様の信任が厚く、お釈迦様に代わって教えを説くほどで、仏教の発展に大きく貢献しました。『般若心経』の経文に「舍利子」と出てきますが、それはこの人のことです。お釈迦様より先に入滅しました。

頭陀行第一といわれました。頭陀行というのは、衣食住への執着を断つために行う行のことです。いつもぼろを身にまとい、托鉢して歩いて布施されたものだけで一日一食で生活しました。お釈迦様の入滅後は、その教えをまとめ、事実上の後継者として、弟子を率い各地に布教して歩きました。

アニルツダ (阿那律)

お釈迦様に居眠りをとがめられて、「私の前では決して眠りません」と誓ったアニルツダ。ムリな不眠がたたってとうとう失明してしまいます。視力を失って、何も見えなくなってしまうとき、逆に彼の智慧の目が開かれたのです。肉体の目は失いましたが、永遠の真理を見る心の眼は見事に開き、天眼第一といわれるようになりました。

スプーティイ (須菩提)

お釈迦様の悟りのひとつに「空」という教えがあります。『般若心経』でも「色即是空 空即是色」とあります。この「空」という教えを最もよく理解していたのがこの人で、解空第一といわれました。また、決して言い争うことをしなかつたので無諍第一とも呼ばれ、信者からの供養が最も多かつたので被供養第一とも呼ばれていました。

今回は五人の弟子を紹介しました。残りの五人については次号ということにいたします。

□ 三ヶ日は本堂ご開扉

一月一日〜三日
午前九時から午後三時まで
三ヶ日は本堂を開放いたしております。ご焼香の用意をしておりますので、どうぞお参りください。



□ 弁天さま祈禱会

一月十五日(土)
午前十時〜十一時
皆様の厄を払い福を招く法要を行います。甘酒の振る舞いもごさいます。誘いあわせてお参りください。

□ 彼岸会

三月二十三日(水)
亡くなられた方のご冥福を祈り、先祖供養の法要を営みます。

※

一月の早朝坐禅会はお休みです
毎月第一土曜日に行っております
早朝坐禅会を、一月はお休みさせていただきます。

「瑞世」をお務めして



大賀 義信

私は臨南寺において檀務等をお手伝いさせていただいております大賀義信と申します。

先日、大本山總持寺において「瑞世」という儀式を務めさせていただきました。「瑞世」というのは住職の資格を得るための儀式のひとつで、永平寺・總持寺の両大本山に拝登し、貫首様の代理として一夜住職を務めるものです。

私はかつて總持寺において、修行僧の中の一人としてお経をあげておりました。今回は、貫首様より代理のお許しをいただき、千畳もある大きな本堂の真ん中で、二〇〇人もの修行僧の中央で、

国民の平和を願い、御開山様の供養の導師を勤めさせていただきました。

それは、修行僧当時、毎日のお勤めで見慣れた風景のほずなのですが、修行時代と違い、見える風景、聞こえてくるお経、そして何より一夜とはいえ住職として導師を勤める責任の重み、強く感じました。また、修行道場の張り詰めた空気に、懐かしさと同時に、身の引き締まる思いがいたしました。

今回の経験を生かし、臨南寺において檀務等にお務めさせていただきたいと思しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

弁天さま万灯会

八月十二日(木)



弁天さま万灯会は、ご先祖を供養するとともに、ご自分の願いがかなうよう祈りを捧げる行事です。夕暮れの訪れとともに臨南寺の境内に「家門隆盛」「合格祈願」などの願いを込めた灯籠がならび、臨南寺の夏の夜は揺れるともしびに包まれました。

マトリ合同法要 「紅葉祭」行われる

十一月十四日(日)午後一時から、がっしょう園マトリにおいて、秋の合同法要「紅葉祭」が行われました。

二〇〇人以上に及ぶ関係者の方々が集まり、しめやかに法要が営まれました。燦然と輝く曼荼羅が見下ろすなか、読経の声と焼香の煙が流れていきました。



お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

第一土曜日 午前六時三十分～
一月・八月は中止します。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
写経料 / 二〇〇〇円



子ども空手教室

毎週木曜日 午後七時～九時
一か月 / 六〇〇〇円

※いずれも事前のお申込みが必要です。

「ほ～っと」13号

平成16年12月

編集・発行：稜伽林「ほ～っと」編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001 FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com

編集後記

中国で孔子や「論語」が復権し見直されています。子どもに暗誦させる親が、特に知識層で増えているようです。私たちもみ仏の教えを子どものときから教えていく必要があるのではないのでしょうか？ 今回の内容はいかがでしょうか。ご感想をお寄せください。採用分には粗品を送らせていただきます。FAXでも結構です。